

令和5年度 第2回丹波市総合教育会議 会議録（要約）

日時：令和6年1月25日（木）午後3時10分～午後4時20分

場所：丹波市役所山南支所3階 大会議室

出席者

市長	林 時彦
教育長	片山 則昭
教育長職務代理者	吉竹 主税
教育委員	安田 真理
教育委員	上羽 裕樹
教育委員	中川 卯衣
総務部長	太田 嘉宏
教育部長	足立 勲
教育部次長兼学校教育課長	池内 晃二
教育部学校教育課副課長	小森 真一
教育部社会教育・文化財課長	小畠 崇史
教育部恐竜課長	田原 弘義
教育部教育総務課長	足立 安司
教育部教育総務課総務係長	足立 真澄
総務部総務課長	荒木 一
総務部総務課総務係長	黒田 浩嗣
総務部総務課主事	山口 智也

傍聴者 0名

- 1 開会
太田部長
- 2 市長挨拶
林市長 挨拶

3 協議事項

「令和6年度丹波市の教育（実施計画）重点施策について」

(1) 概要説明

教育部教育総務課 足立課長より説明

(2) 意見交換

○片山教育長

【①-1】

- ・令和6年度の丹波市の教育（実施計画）重点施策の中にあるとおり、全ての子どもたちがわくわくしながら毎日登校してくる学校というものを目指していきたいと考えている。
そのためには、利他性、協働性、社会貢献意識等が非常に大事な部分になるのではないかと考えている。

【①-2】

- ・子どもたちが自ら考え、主体的・対話的に行動できるような、ビジョンを持った授業をしていく必要がある。

【①-3】

- ・発達障害等の特徴のある子どもたちがある中で尖った部分があっても、その特徴を理解できる先生の力が必要である。
- ・一人ひとりの子どもを主語にする教育を推進していきたいと考えている。そのためには、学校の先生方の資質・能力の向上と働き方改革が必要であり、しっかりと子どもたちに向き合える時間を作っていくことが大切である。

【①-4】

- ・地域の豊かな自然や地域遺産、例えば、丹波三宝等を活かした地域のウェルビーイングを目指していく必要がある。
- ・丹波市ならではの学びを推進していくため、図書館や美術館、ちーたんの館等の今ある施設をどのように活用していくか。子どもたちがわくわくしながら、勉強できる内容にする必要がある。

【①-5】

- ・子どもたちを含めた丹波市の全ての方々が「する」、「見る」、「支える」という文化やスポーツへの参画等を通じて、やり抜く力等を教育の中で学ぶ必要があるのではないかと考えている。

○林市長

【②-1】

- ・自分自身が子どもの頃はわくわくしながら学校に通っており、夏休みになると「早く学校が始まらないか」と思っていたほど、学校が好きだった。自分の子どもの頃のように、子どもたち同士で一緒に遊ぶことがとても楽しいと思えるような学校にしていきたい。
- ・子どもたちが「この先生が好きだ」と言われるような先生がたくさん居られる学校になれば良いと考える。

【②-2】

- ・大きくなってまた丹波市に帰ってきて、丹波市で暮らそうと思えるような、ふるさと学をしっかりとやっていただきたい。

【②-3】

- ・最近の暑さは異常であるため、時代の変化や流れに沿って、学校の体育館にエアコンの設置が必要であると考えている。
- ・自分自身、小学生の頃から本を読むことがとても好きで、本には無限の力があると思うため、ニーズに沿った図書館づくりを推進したい。
- ・恐竜等の丹波市独自の学習も推進していきたい。
- ・施設の整備等については、市長としてしっかりとやっていきたいと考えている。

○安田委員

【③-1】

- ・ウェルビーイングの要素の中にあるように、利他性、協働性、社会的貢献意識の向上については、社会との繋がりの中でできていくものであると思っており、子どもの価値観も大人の価値観も経験に基づいて、自分の中で基礎ができていく。
- ・教育現場だけでなく、社会と繋がるのが大事であると思っているが、どのように思われているか。

○林市長

【④-1】

- ・これまでの人生で多くの人に関わり、自分自身も成長してきたと思うため、学校は勉強をするだけでなく、色々なことが経験でき、色々な人に出会うことができる場所であると思うので、人と関わるのがとても大切で、人間の成長に繋がると思う。**【③-1 関連】**
- ・是非、人との関わりを大事にしていく学校になれば良いと思う。

【④-2】

- ・多くの知識を学んだり、経験したりしてほしいし、色々なことを吸収して色々な人と関わってほしい。

○安田委員

【⑤-1】

- ・できるだけ子どもたちには、自分で何かを選択して決め、決めた理由を自分でしっかり言えるような選択の仕方をしていってほしい。
- ・地域や保護者側も、広い視点で子どもたちを見てあげることが大事であると感じた。**（④-1 関連）**

○中川委員

【⑥-1】

- ・教育委員は子どもを守るだけでなく、学校の先生を守るということも大切な務めである。
- ・学校の先生の本分は子どもと向き合うことであり、子どもと向き合う力を残すためにも、学校の先生の働き方改革を進めるべきであると思う。

【⑥-2】

- ・スクール・サポート・スタッフの充実を進めていただきたい。

○林市長

【⑦-1】

- ・先日、先生たちの労働組合との協議の中で、通常業務に加え、教育委員会等から依頼される業務も多くあるため、少しでも業務量を削減してほしいという意見を聞いている。
- ・自分自身も、先生と遊んだことがとても楽しかったと覚えており、子どもたちにたくさん向き合ってくれる先生が良いと思う。
- ・教員の負担軽減を図るとあるように、先生一人ひとりが生徒一人ひとりに寄り添える時間や物はしっかり準備していきたい。**（⑥-1 関連）**
- ・スクール・サポート・スタッフの方々にとても助けられていると校長先生から聞いているため、全校にスクール・サポート・スタッフを配置する予定としている。**（⑥-2 関連）**

○上羽委員

【⑧-1】

- ・丹波市に帰って来て就職された若い親御さんたちが、お子さんの将来や

生活を良くするために、子どもを預けて働いておられるが、保育料を支払うために働いているような状況であり、お子さんが病気になった際は預かってもらえる場所がないため、月々の生活が苦しくなっていると耳にする。

- ・小さいお子さんがおられる方で丹波市を選んでいただいた方に対し、今ある施策を伝えていくことや、若い方が調べ切れていない場合もあるが、施策が足りていない部分もあると思うので、幼児教育・保育教育に関連し、他市が行っていないことを実施すれば、若い世代の人が働きやすく、子育てしやすい環境に繋がると思う。

○林市長

【⑨-1】

- ・本市では、病後児保育制度を用意しており、利用登録をされた方は多数おられるが、実際に利用された方はいない状況である。
- ・利用者はまだおられないが、生活に困っておられる方やどうしても仕事に行かなければならない方には、子どもを預けられる場所があるため、是非、利用いただきたい。
- ・教育だけに関わらず、市民の皆さんが住みやすい街を目指して、頑張っていきたいと考えている。**（⑧-1 関連）**

【⑨-2】

- ・前職の頃に部下や後輩たちに「子育ては今しかできないので、目一杯子育てを頑張れ」と言っており、自分自身も子育てにしっかり関わってきただけのため、色々相談いただきたい。

○太田部長

【⑩-1】

- ・市は様々なことを行っているが、行っていることを市民の皆さんや必要とされている方に届いていないというのが現状であり、課題は認識している。**（⑧-1 関連）**

○林市長

【⑪-1】

- ・「市のホームページは見にくい」という意見があり、たくさんの情報を載せると「多くの情報を見切れない」という意見もあるし、少し簡潔に乗せると「重要な情報がわからない」という意見が出てくるため、なかなか難しい。

○中川委員

【12-1】

- ・ 1歳半健診と3歳半健診は市内の全ての子どもは保護者同伴で出席するため、情報を渡すには、良い機会である。**【10-1 関連】**

○安田委員

【13-1】

- ・ 保護者の方は、緊急事態に詳細に調べて、情報にたどり着くということはとても大変である。
- ・ 困り事があった場合は、部署名がわかり、すぐに繋がる電話番号がしっかりまとめてあると1番欲しい情報にたどり着きやすいと思う。

【13-2】

- ・ 病後児保育については、内容が理解しづらく、どの範囲であれば、病後児保育として受け入れてもらえるのかが少しわかりづらいと思う。

【13-3】

- ・ 市民目線からすると、行政が出される文書等は要点をまとめた方が、緊急事態の際に必要な情報にたどり着けるため、良いと思う。

○林市長

【14-1】

- ・ 子どもが生まれた人に対して、生活必需品等をセットしてお配りしており、そこに1枚、困った時に確認できる資料を入れることも検討したい。**【13-1～3 関連】**

○安田委員

【15-1】

- ・ 年齢に合わせて受けられる支援等もわかりやすくまとめてある方が良いと思う。実際にこのようなものがあるかもしれないが、定着はできていないのではないか。

○足立部長

【16-1】

- ・ 以前に子育て支援課に在籍していた当時、安田委員にも協力いただき、冊子を作成し、現在も情報更新を行っている。

○中川委員

【17-1】

- ・「むぎゅっと！はぐすたー」のサイトを確認したが、年齢毎に施策が分れており、病院を探すのにも便利なので、このサイトに繋がるように資料のどこかにQRコードを記載してはどうか。**(14-1 関連)**

○太田部長

【18-1】

- ・内容については、内部で情報共有をさせていただき、ご意見いただいた具体的な内容についても参考にさせていただく。

○吉竹委員

【19-1】

- ・社会教育も含め、教育の守備範囲はとても広く、全てが1年で成果が出るものではない性格であると思っている。

【19-2】

- ・片山教育長がおっしゃられたように「学校が中心となって子どもを育てる」という意思を示された中でしっかりやっていかなければならないが、保護者の方や地域の方の協力がなければ、絶対に教育は進まないと思っている。
- ・地域や保護者の方をどのように教育に巻き込んでいくか、巻き込むためには、学校の教育がしっかりとしていないと巻き込めないと思う。

【19-3】

- ・丹波市の教育をどのような発信の仕方で広い範囲に情報を届けることができるのか発想の転換をしながら、やっていくことが大切。

【19-4】

- ・教育は画一的でなく、一人ひとり成果が違うため「あなたらしく、あなたなりに」大事にしてほしい。
- ・画一的に教育し、画一的な成果が出るというだけでなく、教育の成果というものを丹波市の教育として捉えていくことが、丹波市ならではの教育に繋がると思うし、そういうことを大事にした教育であってほしい。

【19-5】

- ・現在、学校現場で困られているのは、若手の先生方についてで、県の教育委員会の人事の統計を見ても、随分早い時期に離職されたり、少し精神的に辛くなったりするところがあるが、1つの改善策として、学校の組

織力を向上させていくことにより、保護者対応をする力や学校の教育力を上げることに繋がると思う。

○林市長

【20-1】

- ・私が住んでいる小学校区では「地域の子は地域で育てる」という言葉があり、地域全員で子どもたちを見ていこうとし、「おかえり」や「帰りました」という挨拶は地域として推奨しており、市民憲章の中でも「おかえり」という言葉があるように、このようなところが丹波市の素晴らしいところであると思う。(19-2 関連)
- ・地域で子どもたちのことをしっかり見てほしいし、丹波市はそういう街であってほしいと思う。(19-2 関連)

【20-2】

- ・先生たちに色々、負担をかけるのではなく、子どもたちにたくさん関わられる環境になればと思う。(19-5 関連)

○足立部長

【21-1】

- ・情報発信について、新型コロナウイルスが広まった頃に教育委員会のLINEの公式アカウントを創設し、現在の登録者数は1,500人余りだが、週に2、3回程度、学校教育や社会教育の情報を発信している。

【21-2】

- ・来年度の丹波市の教育重点施策についても完成したため、発信できるタイミングでわかりやすくして発信したい。
- ・本日の会議の内容を教職員の方にいかに伝えるかは、校長会等を通じてとなるが、教育施策を実施していくのは教育委員会だけでなく、学校現場や社会教育現場になると思うため、実施計画を策定して終わりではなく、特に学校に浸透させていく必要がある。

【21-3】

- ・教育委員会の広報のあり方について、2、3年前に見直しし、教育委員会の広報は凝縮して伝えたいことを伝えられるようパンフレット形式で年に3回発行している。
- ・配布の方法については、子どもたちの保護者の方を中心に配布したり、昨年度からは必要な施設に配布をしたりしている。内容等の改善ができることがあれば、改善していきたい。

○吉竹委員

【22-1】

- ・学校関係、教育関係で学校の特異的な部分をテレビ等で放送すると、特にご高齢の方は関心があると思う。

○片山教育長

【23-1】

- ・子どもたちが活動している良いところや先生が頑張っている部分をどんどん発信していくよう、学校側にも報道関係者を呼び、発信していくように伝えている。

【23-2】

- ・先生が疲れて休んでしまい、代わりがないという問題があるため、来年度は疲れて休んでしまう先生を限りなく0人にしていきたい。
- ・そのためには、個人的に思うことは、早期発見と早期解決が大切になると思うため、早め早めの対応をしていき、1つの目標としていきたい。

【23-3】

- ・「子育ては今しかできない」ということを保護者の方に、機会がある毎に学校から発信していくことも大切である。

○池内次長

【24-1】

- ・教員が休んでしまう主な原因は保護者対応で、教育委員会が頑張って対応できれば良いが、保護者対応に苦慮するケースがある。
- ・教育委員会が何とかできれば良いが、事案が毎年増えてきている状況にある。
- ・他市や丹波篠山市ではスクールロイヤーを設置され、相談できる環境が整えられているため、本市においてもそういうものの確保は必要であると思う。
- ・本市は顧問弁護士の方がおられるが、顧問弁護士への相談となると、文書の作成や決裁を行う等、事務のスピード感が求められるため、市長部局と連携していくことが大切になる。子ども家庭庁が発足してから、不登校対策については、市長部局と連携するよう指示されている。

【24-2】

- ・現在、本市の小学校の中で酸素ボンベを常時使用していなければならない児童がおり、医療的ケア看護介助員に入っただき、常時付きっ切

りで、酸素ボンベを背負い一緒に授業を受けるという状況で、かなり体を無理しながら対応いただいている。学校の先生がフォローできれば良いが、そこまで手が回れていないので、障がい福祉課に相談しながら対応をしており、この点についても市長部局と連携しながらやっていきたい。

【24-3】

- ・現在、中学校の部活動の地域移行について、剣道と野球の部活動については、少しずつ地域移行を進めようと動いており、受け皿ができたところから徐々に始めていきたいと考えている。教育委員会の現場レベルではどうにもならない問題が増えてきていると思うため、今後、協議させていただければと思う。

○太田部長

【25-1】

- ・本日いただいた意見については、それぞれの部署でしっかり受け止め、連携することは連携し、取り組んでいきたい。

- 5 その他
特になし。
- 6 閉会
太田部長